

# 袋掛けによるお歳暮用完熟柿の生産

岐阜県は、富有柿発祥の地で、古くから甘柿に特化した産地を形成しています。柿の品種構成は、富有柿が約80%を占め、一品種に偏った栽培が行われており、収穫期は11月から12月初旬までと短いため、労力集中と集荷量の増大による単価の下落を招いています。そこで、富有柿の供給期間を約半月間延長し、お歳暮需要に対応した完熟果実を生産する方法を開発しました。

## 栽培法の違いが果実品質に及ぼす影響

栽培法	果重 (g)	果皮色 (CC値)	糖度 (%)	果肉硬度 (kg/cm <sup>2</sup> )	含核数 (個)
袋掛け	341	10.0	18.1	0.43	4.2
露地	277	7.6	16.6	1.65	3.9



樹上における袋掛けの様子



岐阜県トップブランド「果宝柿」

### (研究成果)

- ・ 8月下旬から9月中旬頃に樹上の果実に白色パラフィン袋を掛けると、日中の温度が2℃程高く維持できるため、肥大が良好になり大玉果実となります。
- ・ 生育期間の延長により、果実糖度が高くなり、糖組成が変化してまろやかな甘さとなります。また柿特有の白粉(果粉)に覆われたきれいな果実となります。
- ・ 最上級品は、「果宝柿」(商標登録中)と命名され、岐阜県を代表するトップブランド品として各方面で利用されています。